

# 沙流川流域でのホタル生息の経緯と変遷

特定非営利活動法人沙流川愛クラブ

事務局長 平村徹郎

(Keywords:へイケボタル、アイヌ文化、沙流川、オコタン川)

## はじめに

本報告では北海道沙流川流域におけるへイケボタルの生息概況について前半で述べ、後半では文献をもとに、アイヌ文化とホタルの関係について紐解き、沙流川流域とホタルに関して、環境社会的な観点で記述します。

沙流川流域はアイヌ文化が色濃く残る地域であり、アイヌ文化に関する口承伝承(ユカラ)や知見も多く残ります。

一方、アイヌ文化においてもホタルに焦点を当てた論述は多くはないため、貴重な文献とともにご紹介いたします。

当地ならではの着眼点が全国ホタル研究会の多面的な研究の一端となりますことを期しますが、ホタルの生物学的なアプローチではないことをご理解いただきたいと思います。

## 1. 沙流川愛クラブとホタル観賞会

### 1.1 沙流川愛クラブとは

NPO 法人沙流川愛クラブは沙流川との共生をテーマとした住民活動として、平成13年に設立され、平成18年の法人化を経て、令和5年で設立22年を迎えました。

山から海までを一筋の流れ(沙流川)で結び、住民生活と自然環境をあらためて認識し、親しみを深めることが活動の主なテーマとなっています。

沙流川愛クラブでは、後述のオコタン川でのホタル観賞会を主催しておりますが、ホタルに関する事業はこれのみで、源流域での森林づくり、植樹や河川清掃、ニホンウナギの生息調査、野鳥の生息環境の整備などを主に行ってきました。



写真-1 沙流川河口域(北海道開発局 HP より)

○箇所がオコタン川ホタル観賞会会場

### 1.2 沙流川とオコタン川

沙流川は日高山脈北部の熊見山(標高 1,175m)に源を発し、日高町・平取町を南西に流れ太平洋に注ぐ一級河川です。

源流部の日高山脈エリアではこのほど国立公園化が予定されており、原始河川の形態や自然環境を残しつつ、同時に現代生活とのバランスを維持し続けている河川といえます。

沙流川の語源は、アイヌ語の「サラ」Sar=葭原(よしはら)とされ、主に中下流域の特徴に由来するとされています。

このことから昭和20-30年代にはじまる近代的な河川改修以前の沙流川は、河岸段丘間の全幅を蛇行するように水が流れ、いたるところに湿地・氾濫原が広がっていたものと想像できます。

こうした素地はホタルの生息環境として申し分のないものであったことが伺われます。

一言で沙流川流域といえども延長 104km にも及ぶため、上下流で気象環境も大きく異なります。

オコタン川などの河口域は海洋性気候の影響で夏は冷涼で冬は少雪、一方、上流域（日高地区）は、内陸性気候で夏は高温、冬は多雪となります。

産業の開拓は、上流域では原始林の伐採・育林が明治後期に始まり、大正期からは鉱物の産出拠点として歴史が刻まれました。

農業では上中流域で酪農・牧畜、中下流域では水田を主体とした農業が展開され、下流の段丘上では冷涼な気候を生かした馬産が盛んとなり、昭和 40 年代には競走馬（サラブレッド）生産の拠点として知られるに至りました。

現在はかつての氾濫原で展開される水稲とトマト・きゅうり・イチゴなどの施設栽培が盛んで、水産資源ではシシャモや昆布に代表される日高前浜の産物は、日高山脈から流れる豊富で清廉な流れと、沙流川が運ぶ土壤に育まれたものであり、いずれも沙流川とその流域の恵みの上に成り立っています。

オコタン川は最下流で沙流川に合流する支川で、ミズバショウの自生や、ヘイケボタルの自然繁殖など、良好な自然環境と住民生活が隣接する稀有な環境にあります。

例年 7 月下旬にはホタル観賞会を開催し、北海道の短い夏の風物詩を、多くの参加者が楽しめます。

かつてこの観賞会は、門別町富川（現日高町富川）元町振興会が主催していましたが、ここ 20 年ほどは、沙流川愛クラブが主催し鑑賞会を継続しています。

しかし、令和 3,4 年の鑑賞会では、それ以前と少し光景が異なり、ホタル飛翔個体数が減少してしまいました。

会員間では原因として次の事象を挙げています。

- ① ホタル生息地の上流サラブレッド牧場改良
- ② 近年の気候変動（早期の高温化）による飛翔時期の分散

### ③ 下流側のしゅん濇作業（治水上の観点）

オコタン川は原自然河川ではなく、上流の牧場造成、ホタル生息箇所の護岸、近傍の工場建設など幾度かの人工的な環境改変を経て、近年までホタルの自然繁殖を育んできた環境にあります。

前述①、③の要因などは過去にも類似する環境変化を経験していることもあり、動向を監視することが重要だと考えています。

## 2. 沙流川流域でのホタル分布状況

現在、沙流川流域で生息が確認されている場所を下流から順に表-1、図-1 に示します。

流域内の随所で生息が確認され、人口集中区域を除いて、その近傍でも生息が確認されています。

	近年の繁殖地	繁殖地	標高m	備考
A	オコタン川流域	河川	18-22	河川・私有地
B	去場	山腹法尻湿地	20-25	私有地
C	荷葉	用水路・水田	25-27	私有地
D	二風谷	準用河川	50-60	公園内
E	貫気別	沼沢	95-100	私有地
F	仁世宇川流域	河川・公園内湿地	105-115	公園キャンプ場
G	日高	用水路・水田	290-295	私有地他

表-1 沙流川流域内 現在のおもなホタル生息地

(A, G : 日高町 B~F : 平取町)



図-1 現在の主なホタル生息地

(ベースの沙流川水系概要図は北海道開発局 HP より)

A.オコタン川の標高 18m程度から G.日高では標

高 295m程度と、低標高から高標高まで生息が確認されています。

餌となるカワニナなどの捕食物の生息限界と一致しているものと想像されますが、原流域での生息限界は確認できていません。

流域内でのホタル生息の経緯を周辺住民へ聞き取りすると、次の特徴があります。

◆ かつては生活域とほぼ密接してホタルが生息していたが、ここ 40 年ほど見かけなくなった。

◆ 水田地帯では、ここ 10 年ほどに「飛翔が確認されるようになった」、もしくは「少なかった個体数が数を増してきた」

という証言が多くあります。

同時にホタル生息の変遷に関する要因として、次の事象が挙げられます。

- ① 田畑で使用された農薬の影響(多・少・種類)
- ② 森林域で用いられた殺鼠剤の影響(幼木の苗木の保全のため)
- ③ 浄化槽の終末処理施設の排水の影響
- ④ 住宅地近傍の夜間照明の設置(暗部・コリド一の減少)

これに加え、前述オコタン川での諸要因も流域内で多く生じていることが考えられます。

人の生活環境の変化とホタル生息域・生態系に関して、複雑な要素が絡み合っていることも想像され、何が正解であるのかわからない実情にあります。

またこれはホタルの減少に限ったことではありませんが、ザリガニのほかカワニナなどのエサとなる底生動物の減少とも併せて指摘されることが多くあります。

沙流川流域の住民・沙流川愛クラブでは定点観察を行うことができる表 1 の代表的生息地について、今後も動向を見守ることが重要だと考えています。

### 3. アイヌ語とホタルの関係

アイヌ語でホタルを表す言葉として、図-2 に

示すように地域によって方言のように多少の呼び方に差異があることに気づきます。

これは、アイヌ文化期から北海道各地で当然のごとくホタルが生息していた裏付けともなります。

ほたると科	
Cantharidae	
§ 115. ヘイケボタル <i>Luciola lateralis</i> MOTSCHULSKY	
(1)	níninke-kamuy 《尾》ホタル
(2)	níninkep 《名; 美; 屈; 尾; 旭; 様》ヘイケボタル
(3)	ninikep-kamuy 《屈》ヘイケボタル
(4)	níninkeppo 《美; 幌; 沙》ヘイケボタル
(5)	níninkep 《美; 屈; 浦河》ヘイケボタル
(6)	ninikep-kamuy 《美》ヘイケボタル ビ IX, 76
(7)	níninkeppo 《幌》ヘイケボタル
(8)	núnikeppo 《礼》ヘイケボタル
(8)	tómtom-kikir 《十勝の一部》ヘイケボタル 本別 井上 9

図-2 分類アイヌ語辞典 第二巻動物編 知里真志保

注) 上記、「沙」は沙流川流域での方言を指す

### 4. 沙流川流域でのホタルに関するユカラ

沙流川流域では「ニンニンケッポ」【ninninkeppo】(減ること(明滅すること))を表す語根、前述図-2)や、「エマカックル」【e-mak-ka-kur】(照らす、国立アイヌ民族博物館アーカイブ、出典;萱野)を語源として、ホタルを呼称していたようです。

沙流川流域にはホタルに関するユカラ(yukar)が残されています。ユカラは、アイヌ民族に伝わる口承文芸の総称とされています。

萱野茂さんは沙流川中流域、平取町二風谷に生まれ、アイヌ語研究の第一人者としてアイヌ語伝承保存のため沙流川流域の古老を中心にアイヌの昔話・カムイユカラ・子守唄等の録音収集を始め、金田一京助のユカラ研究の助手を務めた方です。

萱野さんは著書『カムイユカラと昔話』(小学館)において、平取町去場(図-1, B箇所)の古老が語った「ホタルの婿選び」というユカラを収録し、解説しています。

陸生のホタルが、カジキマグロ(海洋生物)を婿に選ぶ奇想天外な寓話ですが、萱野茂さんは次の

ように解説しています。

—アイヌのカムイユカラ (神謡) の自由さ、奔放さがよく出ている作品です。ホタルが自分の婿さんを探しに海の上を飛び、海の隅々まで照らします。そして斜視の男 (ヒラメ)、黄金色の目の男 (サメ)、顎ひげの男 (タラ)、そして最後に力持ちで器量の良いカジキマグロに出会い、彼を夫に選びます。(中略) 小さいホタルと大きなカジキマグロ、この組み合わせは、まさにカムイユカラならではの世界です。このカムイユカラは山にいるアイヌたちが魚の特徴を覚えるのにとっても良い作品です (略) —

一方、帯広市教育委員会発行のアイヌの故事風土記をまとめた図書 (非売品、昭和 32 年発行) において、日高地方の故事・風土記として次の記載があります。

—ニンニン・キッポ (蛍) が出れば、シリカップ (かぢぎ) が取れはじまるという。—

帯広市社会教育業書 No.3 愛郷譚業<アイヌ故事風土記>  
著者; 吉田巖 (非売品)

一見、無関係な二つの記述ですが併せて考えると、カジキマグロはアイヌの暮らしにおいて重要な食料の一つであり、ホタルはその漁期を知らせる重要な役割を担っていたことをうかがわせる記述ととらえることができます。

日高管内の他地域でも、例えば新冠町判官館公園付近でのホタル生息報告があるように、沿岸域でもホタルの生息があり、漁労をする人たちがホタルの飛翔を合図にして、カジキマグロ漁を行うといった、ホタル (季節) を通じた古来の生活様式を伺うことは非常に興味深い事です。

(参考までに「ホタルの婿選び」原文を末尾に転載します)

おわりに

アイヌ文化をふんだんに織り交ぜた人気漫画ゴ

ールデンカムイ (小学館) が実写映画化され、その多くのシーンの撮影は沙流川流域で行われたとのこと。

このエピソードが物語るように、沙流川流域は「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」として国内 3 例目の重要文化的景観に選定されています。

日高山脈の原自然の上にアイヌ文化期の生活基盤、その上に明治期以降に始まる近代開拓の足跡、さらに現代の生活様式と、そのいずれもが重層的に重なり、現在もそのすべての重なりを垣間見ることができる稀有な文化的景観としての評価です。

日高山脈の原自然期からホタルが存在し、アイヌの生活様式、明治開拓期を経て、現在も私たちの生活の傍らで明滅を繰り返すホタルの悠久に改めて気づくこととなりました。

国立公園化が目前と迫る日高山脈を擁する当地においても、環境の変化をどのように受け止め、何を残し伝えるべきか、また流域内外の人々とどのように共有すべきか、ということを見直す契機となることと思います。

沙流川流域の現在のホタル生息地とその変遷、歴史、文化をたどることで地域の環境を考える意義深い論述の機会を得ました。

全国大会開催地団体として研究会誌の誌面を割愛いただきましたことに感謝いたします。



カムイユカラと昔話 菅野茂 著 (小学館) くり  
 ホタルの婿選び

① 大きな体のわたくしは

トウカナカナ  
 チ・ムツカネ

しばらくの間飛んでいくと  
 一人の若者に出会ったので  
 よくよく見るとそのお方は

② バイエ・アシ・アイネ  
 トウカナカナ  
 シネ・オツカイボ  
 トウカナカナ  
 チ・スカラ・コロカ

体も大きく目も大きい  
 鼻だけ少し長いけれど  
 わたくしのようないい女に

③ シキヒ・カ・ポロ  
 トウカナカナ  
 エトウフ・カ・タンネ  
 トウカナカナ  
 キワ・ネコロカ

海の表の隅々まで

アトウイ・クルカ  
 トウカナカナ

目の色が黄金色

④ トウカナカナ  
 コンカネ・シコ  
 トウカナカナ  
 チ・エ・コバンカ

似合いの男と想ったので

⑤ チ・ヤイ・コトムカ  
 トウカナカナ

強い光で照らしながら

エ・マツカクル  
 トウカナカナ

それが嫌でわたくしは

⑥ トウカナカナ  
 オロワウン・スイ  
 トウカナカナ

その若者をわたくしは

⑦ シ・カブ・ネルウエ  
 トウカナカナ

海の上を横切って

⑧ アトウイ・トモトウイ  
 トウカナカナ

その次にまたわたくしは

⑨ トウカナカナ  
 バイエ・アイネ  
 トウカナカナ

お嬢さんに選んだので

⑩ トウカナカナ  
 ネー・セコロ  
 トウカナカナ

自分に似合う婿さんが

⑪ チ・ヤイ・コトムカ  
 トウカナカナ

いい若者に出会ったので

⑫ トウカナカナ  
 ビリカ・オツカイボ  
 トウカナカナ

わたくしの夫はカジキマグロ

⑬ ニンニンケツボ  
 トウカナカナ

いないものかと探しに行った

⑭ チ・フナラ・クス  
 トウカナカナ

よくよく見るとそのお方は

⑮ トウカナカナ  
 チ・スカラ・コロカ  
 トウカナカナ

強い魚がわたくしの婿だと

⑯ ハウエアン・シコロ  
 トウカナカナ

しばらくの間飛んでいくと

⑰ トウカナカナ  
 バイエ・アシ・アワ  
 トウカナカナ

顎の所に一本のひげ

⑱ トウカナカナ  
 シネ・レツ・トウ・コロ  
 トウカナカナ

一匹のホタルがいったそうだ

⑳ ネハウエウン  
 トウカナカナ

① 若い者が目に入った

② ビリカ・オツカイボ  
 トウカナカナ

それが嫌でわたくしは

③ トウカナカナ  
 チ・エ・コバンカ  
 トウカナカナ

わたくしの夫はカジキマグロ

④ トウカナカナ  
 ニンニンケツボ  
 トウカナカナ

だんだんと近づくと

⑤ トウカナカナ  
 チ・スカラ・コロカ  
 トウカナカナ

そのあとふたたび飛んでいき

⑥ トウカナカナ  
 オロワウン・スイ  
 トウカナカナ

お嬢さんに選んだので

⑦ トウカナカナ  
 ネー・セコロ  
 トウカナカナ

そのお方は斜視であった

⑧ トウカナカナ  
 ウトンナ・シコ  
 トウカナカナ

大きい体のわたくしは

⑨ トウカナカナ  
 チ・ムツカネ  
 トウカナカナ

その若者をわたくしは

⑩ トウカナカナ  
 シ・カブ・ネルウエ  
 トウカナカナ

それが嫌でわたくしは

⑪ トウカナカナ  
 チ・エ・コバンカ  
 トウカナカナ

強い光で海の表の

⑫ トウカナカナ  
 アトウイ・クルカ  
 トウカナカナ

似合いの男と想ったので

⑬ トウカナカナ  
 チ・ヤイ・コトムカ  
 トウカナカナ

しばらくの間飛んでいき

⑭ オロワウン・スイ  
 トウカナカナ

隅々まで照らしながら

⑮ トウカナカナ  
 エ・マツカクル  
 トウカナカナ

わたくしのようないい女に

⑯ トウカナカナ  
 シ・カブ・ネルウエ  
 トウカナカナ

大きい体で飛んでいった

⑰ トウカナカナ  
 チ・ムツカネ  
 トウカナカナ

海の方へ飛んでいき

⑱ トウカナカナ  
 バイエ・アイネ  
 トウカナカナ

お嬢さんに選んだので

⑳ トウカナカナ  
 ネハウエウン  
 トウカナカナ

海の表の隅々まで

① アトウイ・ソ・クルカ  
 トウカナカナ

しばらく行くといい若者に出会ったので

② トウカナカナ  
 ビリカ・オツカイボ  
 トウカナカナ

その若者をわたくしは

③ トウカナカナ  
 チ・ムツカネ  
 トウカナカナ

強い光で照らしながら

④ エ・マツカクル  
 トウカナカナ

よくよく見るとそのお方は

⑤ トウカナカナ  
 シネ・レツ・トウ・コロ  
 トウカナカナ

強い魚がわたくしの婿だと

⑥ トウカナカナ  
 ハウエアン・シコロ  
 トウカナカナ